

## 第 2 回（平成 19 年度）IODP 部会・執行部会 議事録（案）

日時：2007 年 5 月 15 日（火） PM14：30～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

### 出席者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）  
 安間 了（筑波大学）池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）  
 井上麻夕里（東京大学海洋研究所）北村晃寿（静岡大学）小平秀一（海洋研究開発機構）  
 坂本竜彦（海洋研究開発機構）高澤栄一（新潟大学）日野亮太（東北大学）  
 山崎俊嗣（産業技術総合研究所）山田泰広（京都大学）

オブザーバー：

文部科学省海洋地球課：戸谷洋子  
 海洋研究開発機構国際課：笹山岳大  
 海洋研究開発機構 CDEX：木戸ゆかり  
 事務局：山田 泰 加賀谷一茶 梅津慶太

### 欠席者（敬称略）

執行部：松本 剛（琉球大学）山本啓之（海洋研究開発機構）

### 議事次第

1. IODP 活動に対する要望(箇条書き)などの整理(川幡部会長)
2. 乗船者・Co-Chief ハンドブック, 年間行事のマニュアル作り(川幡部会長・事務局)
3. JDESC-スクールなど(坂本委員・池原委員)
4. 乗船研究に関する報告(阿波根部会長補佐)
5. 執行部会と各部会との関係, 特に SSEP に対応する部会について(阿波根直一・川幡穂高)
6. 各国際委員会, 各部会の報告(各委員・担当者)
7. 今後の活動(出席者)
8. その他
  - ・ 国際 SAS パネルローテーションについて(事務局)
  - ・ その他報告事項
  - ・ 次回執行部会開催日程

### 配布資料

資料 1	IODP 活動に関する問題点の整理	資料 4-3	NanTroSEIZE Stage 2 今後の計画・スタッフティングの手順
資料 2-1	乗船者・Co-Chief ハンドブックの作成について	資料 4-4	USIO SODV Planning Schedule
資料 2-2	乗船者ハンドブック(JR 号版)	資料 5	科学推進専門部会報告
資料 3-1	コア解析スクール参加者の概要	資料 6	SAS Panel ローテーション表
資料 3-2	コア解析スクール参加者リスト	別添資料 1-1	国内出張手続き
資料 3-3	J-DESC コアスクールについて(案)	別添資料 1-2	SAS 委員出張事務手続き
	(乗船研究 Schedule、Staffing 関連資料)	別添資料 1-3	IODP 乗船研究者事務手続き
資料 4-1(1)	J-DESC NanTroSEIZE Stage 1 ランキング	別添資料 1-4	総会手順について
資料 4-1(2)	NanTroSEIZE Stage 1 Staffing CDEX/USIO 案	別添資料 2	IODP 部会執行部からのご報告
資料 4-1(3)	Exp. 314 スタッフング 変更について	別添資料 3	第 3 回 IODP 成果報告会プログラム
資料 4-2(1)	J-DESC Equatorial Pacific ランキング	参考資料 1	IODP Staffing Procedures
資料 4-2(2)	Equatorial Pacific Staffing USIO 案	参考資料 2	J-DESC 名簿(委員、ML)

**本委員会資料の通し番号（暫定案）**

※[IS07\*\*\*]が通し番号になります。（IS=j-sikkou, 07=年度, \*\*\*=番号が入ります。）

資料 1	[IS07028]	IODP 活動に関する問題点の整理
資料 2-1	[IS07029]	乗船者・Co-Chief ハンドブックの作成について
資料 2-2	[IS07030]	乗船者ハンドブック (JR 号版)
資料 3-1	[IS07031]	コア解析スクール参加者の概要
資料 3-2	[IS07032]	J-DESC コア解析スクール(案)
資料 3-3	[IS07033]	J-DESC コアスクールについて(案)
資料 4-1 (1)	科学推進	J-DESC NanTroSEIZE Stage 1 ランキング
資料 4-1 (2)	科学推進	NanTroSEIZE Stage 1 Staffing CDEX/USIO 案
資料 4-1 (3)	[IS07036]	Exp. 314 スタッフィング変更について
資料 4-2 (1)	[IS07037]	J-DESC Equatorial Pacific ランキング
資料 4-2 (2)	[IS07038]	Equatorial Pacific Staffing USIO 案
資料 4-3	[IS07039]	NanTroSEIZE Stage 2 今後の計画・スタッフィングの手順
資料 4-4	[IS07040]	USIO SODV Planning Schedule
資料 4-3	[IS07041]	NanTroSEIZE St. 2 計画
資料 5	[IS07042]	科学推進専門部会報告
資料 6	[IS07043]	SAS Panel ローテーション表
別添資料 1-1		国内出張手続き
別添資料 1-2		SAS 委員出張事務手続き
別添資料 1-3		IODP 乗船研究者事務手続き
別添資料 1-4		総会手順について
別添資料 2		IODP 部会執行部からのご報告
別添資料 3		第 3 回 IODP 成果報告会プログラム
参考資料 1		IODP Staffing Procedures
参考資料 2		J-DESC 名簿 (委員、ML)

## 議事録

はじめに事務局から資料の説明がなされた。

別添資料 1-1、1-2、1-3、1-4 に基づき、事務手続きに関するマニュアルについて川幡部会長より事務局に改善点が示された。

- ・ 合同大会・成果報告会の開催マニュアルを作成する。
- ・ SAS 委員旅費については、AESTO、MEXT、IODP-MI、他のお金との組み合わせの 4 パターンでお金を払うケースがあるので、それぞれについて手続きのマニュアルを作る。
- ・ スケジュールどおりに行かなかった場合の申請方法マニュアルも作る。

### ● 別添資料 2 「IODP 部会からのご報告」

HP に載せただけでは、自分で見に行かないと見ないという問題がある。

地球物理のほうでメーリングリストがあったらメールを出す。

川幡部会長より別添資料 2 について説明がなされた。

### ● メーリングリストに関して

利益還元の対象の中心は学生・院生なので、学生・院生に連絡が行くようにする。

### ● 別添資料 3

別添資料 3 について事務局から説明がなされた。

- ・ 第 3 回成果報告会を 5 月 25 日（金）東大海洋研にて開催予定。
- ・ 旅費のサポートもある。
- ・ 宣伝については、文科省からプレスリリース、事務局からメーリングリストにてメールを配信。

## 1. IODP 活動に関する要望(箇条書き)などの整理(川幡部会長)

川幡部会長より標記の件について資料 1 にもとづき、説明がなされた。

- ・ 項目ごとに問題点を整理した。

## 2. 乗船者・Co-Chief ハンドブック、年間行事のマニュアル作り(川幡部会長・事務局)

川幡部会長より標記の件について資料 2-1 に基づいて説明がなされた。

- ・ ちきゅうに関しては CDEX で何パターンか用意し、HP で公開予定。
- ・ MSP は航海ごとに船が違うので何人かに依頼する。
- ・ 最低限の部分については HP に載せる。経験談を集めたものについては、個別にメールで流すが、責任は持たないという旨をはっきりと記載する。
- ・ SODV (USIO) の体験談を池原 研さん (core-description)、山本由依さん、ともう一人に頼む。
- ・ 最終的なまとめ方については、多くの人に共通するようなミニマムの部分についてのみ抽出する。その他の体験談については希望者にのみ公開する。

### 3. J-DESC スクールなど(坂本委員・池原委員)

坂本委員から資料 3-3 に基づき、J-DESC コアスクールについて説明がなされた。

- ・ より専門的な乗船研究者要請のためのスクールとして、今まであったスクールを連携させた形で発展させていく。
- ・ J-DESC 主催で実施母体となる会員機関との共催という形で開催。
- ・ 名称は「J-DESC コアスクール」
- ・ 今後必要となるコースの開設については執行部から提案する。
- ・ 会員機関からの参加者（院生・学生）に旅費の援助を行う。

池原委員から資料 3-1、3-2 に基づき、これまでのコア解析スクールについて説明がなされた。

- ・ 参加者数のうち、会員機関からの参加者数はおよそ 7 割。
- ・ 会員機関ベースでは、およそ 50%の会員機関の参加実績がある。
- ・ 年間 50 人ほど参加者がいる。

川幡：講師はボランティアとしての立場を続けていくために、ボランティアの方をリスペクトする姿勢が大事かと思います。池原さん達がやってこられたことを J-DESC がとってしまう形になることは悪いなと思います。ポスドクに応援で来てもらうためにも、J-DESC 主催・コアセンター共催という形にして、オフィシャルに J-DESC から要請する。お金に関しては、授業料を払っている学生・院生に旅費として数千円～1 万円ずつ支給する。旅費として出せますか？それとも資料作成費として計上したほうが良いですか？

加賀谷：会員提案型だと 7 割までが旅費として出せるが、J-DESC コアスクール開催費として計上すればそのような制限なく支援できると思います。

(各委員コメント)

安間：基本的に賛成。J-DESC としてオーソライズすることも OK。会員機関の学生優遇も賛成。単位を出すとすると、単位ほしきだけに来る学生が出るかもしれない。これまでのスクールのレクチャーノートは良くできているため、J-DESC で後押しして出版できるようになったら良い。(川幡：レクチャーノートを会員機関のみに配る。J-DESC 会員の付加価値としてアピールする)

山崎：賛成です。その他のところで、古地磁気も定期的に来ればよいと思いますし、協力します。規模としては 15 人くらい、1～2 年に一回でも需要はあると思います。

井上：アドバンストコースに参加した。レクチャーノートは PDF で配ることは可能ですか？(坂本：不特定多数に配信するのは難しい) ポスドクに旅費を支援して手伝ってもらうのがよい。

日野：会員機関への利益還元という意味では一つの売りになる。今まで高知大学でやってきたのが高知大学のプレゼンスを示すのに貢献してきたのであれば、J-DESC が主催となると高知大学に不利益になってしまうのでは？(池原：年報などに載せたりはしたが、細かいところまで上層部はあまり気にしてはいないのではと思います。むしろ J-DESC からのオーソライズはプラスかもしれない) システムティックにやろうとすると特定の人に負荷がか

かってしまうと良くないかもしれない。乗船者ハンドブックに関して、将来乗船研究候補者に向けて疑似体験になるようになると良い。(木戸：CHIKYU HAKKEN にバーチャルツアーというものはあります)

高澤：非常にいい企画だと思います。こういうところで経験しておく乗船しようという気になるのではないのでしょうか。ハードロックではこういう企画が今までなかったと思うので、ハードロックでも記載などでスクールが出来ればよいと思う。岩石学的な記載はしっかりしているが、どこで線引きするかという定義などは船によって異なると聞いている。

小平：実施するほうにとっても参加するほうにとっても J-DESC という冠をつけたほうが良いと思います。宣伝をうまく考えることが重要。コミュニティーを広げることは重要であるので、長い視野を持っていろいろな分野でこのようなことを考えてやっていったほうが良い。(川幡：宣伝については、機関対応者の先に情報がいくようなシステムの整備が必要)(坂本：個人単位でメーリングリストに登録)(阿波根：iodpsc に流す)(川幡：メール受信担当者として各機関 2 人に送る) 大学内などで年中行事にして、若い世代に伝えるシステムを作る。(参加者リストから会員機関以外からの

山田：メールに関して、「関係者各位」で回ってくるとどの範囲に回っているのかわからないため、他に回しづらい。そのメールを誰に出したかを明確に示して、どこに情報を流してほしいのか明確にしてほしい。会員機関の優遇については、いいと思います。J-DESC コアスクールについて、特に大学の方はボランティアで設備提供や講師役を行っていますので、所属機関(長)宛にも acknowledge したほうが良い。乗船者の少ない分野の研究者を育てること(スクール開催)が重要。乗船スケジュールにあわせて先を見越したスクールなどの研究者養成を行うべき。(川幡：来月か再来月に J-DESC から各委員会についての acknowledge letter を機関と個人に送る。乗船旅費を拡大解釈で航海に関連したトレーニングにもお金度出してもらいたい)

荒井：会員にお金を還元することも大切だと思います。乗船者のうち、微化石層序野研究者が足りない。経験的なスキルに対して研究者を育てるのは難しいが、スクールを定期的に行うなど考えるのが良いのでは。IO から乗船者のリクエストが来るのは微化石が一番多い。化学、古地磁気も多少はある。

北村：高知だと静岡からは行きにくいので、これまでの参加者は少ない。そのため、これまで会員への還元としては、あまり還元されていないのではと思います。微化石の専門家養成は短期間では無理なので、現実的にできることから始めるのが良いと思います。単位を与えることは考えないほうが良い。

阿波根：共催でやるのは良い。これまでスクールの活動をしてきた機関と J-DESC が J-DESC の冠をつけたほうが良いということそれぞれ思っているからだと思います。

川幡部会長・事務局より予算について、追加資料に基づいて説明がなされた。

- ・ 会員提案型活動経費が 220 万円程度、シンポジウム開催費が 100 万円。
- ・ 案としてシンポジウム開催費(100 万円)の中に J-DESC スクール開催費を組み込む。
- ・ 消耗品・レクチャー資料(基礎・アドバンスコース・非破壊)、ポスドクボランティアのための費用を合わせて 50 万円を必要経費とし、参加者への補助として 25 万円を全体として 75

万円。その他のスクールの開催費として 25 万円で、合計 100 万円を J-DESC コアスクール開催費とする。

- ・ 高知大など、開催地からの参加者にも旅費補助を出す。
- ・ 他のスクール（ア）～（ケ）についても適当な人に声をかける。

#### 4. 乗船研究に関する報告(阿波根部会長補佐)

阿波根部会長補佐・事務局より参考資料、資料 4-1 (1)、4-1 (2)、4-1 (3)、4-2 (1)、4-2 (2)に基づいて IODP スタッフィングの手順、NanTroSEIZE stage 1、New Jersey、Equatorial Pacific の状況について説明がなされた。

- ・ 必ずしも J-DESC のランキングどおりにスタッフィングされていない。
- ・ Exp. 314 に関して、日本人の大学院生を乗船させるべきであるという意見があったため、Lin さんの代わりに宮川さんを招聘するという連絡を CDEX から受けた。
- ・ 乗船研究者のノミネーションについて、PMO のランキングから大きく外れたノミネーションがあった場合には、PMO から IO に理由を問い合わせることができる。
- ・ New Jersey の航海の人は決定済みで、スケジュールも決まっていたが、航海で使用予定の船が現在他のクライアントに貸し出し中であり、スケジュールが伸びるかもしれない。
- ・ Equatorial Pacific は I と II があり、航海に一部重複がある。日本からは今のところ 8 名が Equatorial Pacific I (阿波根部会長補佐が Co-Chief) にノミネートされている。Physical property の乗船研究者を募集中 (本日締め切り)。
- ・ 今後の予定：CDEX の日程は現在のものではほぼ確定。NanTroSEIZE stage 2・USIO の航海は、2 つあったものがひとつになり、特例的に Co-Chief は 4 人となる。

#### 5. 執行部会と各部会との関係、特に SSEP に対応する部会について(阿波根部会長補佐・川幡部会長)

SSEP 委員ローテーションについて事務局より説明がなされた。

- ・ 2007/11 で 4 人同時に退任することになっていたが、後任選出をスムーズにするため、広野委員と伊藤委員は 5 月で退任してもらう。それに伴い SSEP 委員の公募を J-DESC HP で開始予定。
- ・ 2007/5Huston (SSEP)：広野委員の alternate として熊谷氏、安間委員の alternate として石渡氏。
- ・ 科学推進専門部会部会長の任期について、任期があると流れが絶たれてしまうため、日本はコミュニティーが小さいので、アメリカ合衆国のようになりかなり独立で部会も運営していくのは、難しいので、同じ人が継続してやっていってもよいと思う。ランキング、プロポーザルの育成などは小グループで分担するのが良い等の議論があった。

#### 6. 各国際委員会、各部会の報告(各委員、担当者)

山崎委員より資料 5 に基づいて科学推進専門部会の報告がなされた。

- ・ SSEP の多田共同議長が、専門部会員を兼務するのは大変であるため、リエゾンという立場にしてほしいとの要請があった。

- ・ 多田共同議長が 2007/11 で任期満了になるため、その後任者はそれ以前に SSEP に出ているなければならない。
- ・ 後任はどこが主体になって選出するのかという疑問があがった。

#### <承認事項>

- ・ SSEP 共同議長は科学推進専門部会にはリエゾンという形で参加してもらうことが承認された。

#### <確認事項>

- ・ SSEP の多田共同議長の後任は情報待ち。
- ・ 部会の中で科学推進専門部会のシステムを変えていかなければならないと言われているため、実効性のあるマニュアルを整備していく。
- ・ 7 月ごろまでに専門部会のシステムを変えることについての案を出してもらう。その上で、執行部会で案を練って科学推進・事前調査各専門部会で話し合ってもらおう。
- ・ プロポーザル支援の審査は科学推進専門部会、承認を小泉委員会が行う。

事前調査専門部会について荒井委員から報告がなされた

まだ決定ではないが、CDEX で来年度から事前調査関連のお手伝いをして頂けるというような話があった。事前調査専門部会がうまく機能することによってプロポーザルが良くなっていくだろう。

## 7. 今後の活動(出席者)

業務分掌について

科学推進専門部会担当：荒井委員、他の専門部会にも副担当をつける予定。

古生物 WG：北村委員、日本応用地質学会：山田委員、日本海洋学会：川幡部会長、海洋調査技術学会：山崎委員、日本火山学会：安間委員、日本岩石鉱物鉱床学会：高澤委員、日本鉱物学会：安間委員、日本古生物学会：北村委員、日本地震学会：小平委員、日本測地学会：松本委員、日本第四紀学会：北村委員、日本地球化学会：川幡部会長、日本地質学会：荒井委員、日本堆積学会：荒井委員、日本有機地球化学会：池原委員、資源地質学会：川幡部会長、地球電磁気・地球惑星圏学会：山崎委員、地球合同大会運営機構：川幡部会長、物理探査学会：山田委員

安間委員より乗船者ハンドブックの進め方について確認があった。

- ・ 乗船者ハンドブック作成の進め方については、担当の方で話し合ってから決める。

事前調査専門部会について

荒井：事前調査について J-DESC 側からもこうして欲しいという意見を JAMSTEC に出して欲しい。

川幡：オフィシャルにならない段階でお話をしに行きます。

## 8. その他

- ・ 国際 SAS パネルローテーションについて（事務局）  
2007/6Huston (EPSP)の alternate が 3 人必要（産総研、JAMSTEC から選出）。
- ・ その他報告事項
  - ・ 川幡部会長より乗船者の目的意識とスキル向上のために、プレミーティング・プレトレーニングなど、事前に開催する旅費を乗船旅費から出せるように解釈の拡大の申し入れがあり、JAMSTEC 国際課が検討することになった。  
（研究費などを得ている人は自分の研究費でまかなってもらう）  
（早ければ夏前に正式に始める）  
（ある程度の航海をまとめて開催する）
  - ・ 受け取る側で意味のあるお礼の手紙を出す際のカテゴリー分けなど、今後話し合っていく。
  - ・ 事務局よりプロポーザル作成支援に関して、現在申請することがわかっているのが 2 件あり、周囲への宣伝の要請があった。
  - ・ SASEC で決まった IODP アンバサダープログラムについて、阿波根部会長補佐より質問があり、事務局からは現在のところ返答はないとの回答があった。
- ・ 次回執行部会開催日程  
宿利企画官の都合が良い日に行う。6 月 20 日までに（SASEC、BoG の前）。